

現場でのICT活用停滞と紙文化の負担を分析し、段階的なICT定着とAI活用ツールの導入を検討。保育現場に寄り添うDXを推進し、職員が安心して長く働ける環境と質の高い保育を両立するための計画を策定。

社会福祉法人平田保育会				https://hirata-hoiku.jp/	
本社所在地	出雲市平田町475-9	資本金	-	事業概要	保育所4施設、病児・病後児保育、放課後児童クラブの運営
代表者名	園山 繁	従業員数	142名		
設立年	1977年	業種	児童福祉事業		

背景

- ICT環境の整備は進んでいるものの、現場での活用が限定的であり、依然として膨大な紙記録や転記作業が職員の大きな負担となっている。
- 職員間でITリテラシーや活用意識に差があり、既存システム（ゆめ・ドリーム等）が持つ多機能なメリットを十分に享受できていない。
- 少子化の中で「質の高い保育」を維持するためには、デジタル化による業務効率化を図り、子どもと向き合う時間を確保することが経営上の最優先課題である。

計画の骨子

段階的ICT定着とスキルの底上げ

- ▶ 5か年のロードマップに基づき、レベル別の研修体系整備と「活用サイクル」の実施により、職場全体のITへの苦手意識を和らげ、ICT活用を仕組みとして定着させていくこととした。
- ▶ 記録の電子化を推進して事務工数を削減し、職員の心身の余裕と保育の質の向上を同時に実現する計画を策定した。

AI活用による業務の高度化推進

- ▶ 将来的にはAIによるシフト作成支援や問い合わせ対応のチャット化を導入し、さらなる業務の省力化を図ることとした。
- ▶ データを活用して職員配置の最適化や人材育成を継続的に改善できる運営モデルを確立し、選ばれる施設への進化を目指す方針を策定した。